

とてつもない大きな力

前田 高志

私が徳永さんに最初にお会いしたのは、今から約10年前、私が大阪工英研に入会する時でした。当時、徳永さんは工英研の幹事をなさっていて、入会するときに、いろいろお世話になりました。後日、湯浅電池の常務取締役にまで昇りつめられたことを知り、そのようなりっぱな方が私のような若造にあれだけご親切にしてくださっていたのかと思い、恐縮してしまったのを今でも覚えています。

私共と肩を並べて翻訳の勉強をなさっているお姿を拝見しながら、その熱心さにはいつも頭が下がる思いでした。特に、水上先生の講義録をいただいた時には、私などは到底持ち合わせていない、何かとてつもなく大きなものを徳永さんの中に見る思いでした。

最初にお会いした時には、あれほど張りのあったお体が、ここ数年どんどん小さくなっていくのを、淋しい思いで見えておりました。

工英研を中心になって創設なさったのも徳永さん。私が今まで翻訳の勉強を続けることができ、今日の私があるのも正に徳永さんのおかげといっても過言ではありません。

徳永さん大変ありがとうございました。
ご冥福をお祈りいたします。

合掌